

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	令和4年度 第3回社会教育委員会議小委員会		
事務局 (担当課)	生涯学習部生涯学習課 電話042-769-8286 (直通)		
開催日時	令和4年10月14日(金) 午前10時～正午		
開催場所	相模原市役所 第2別館5階 教育委員会室		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)	
	その他	0人(別紙のとおり)	
	事務局	6人(生涯学習課長 外5人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議題「ヒアリング調査について」 3 その他		

## 議 事 の 要 旨

### 1 あいさつ

生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長の進行により、開会のあいさつを行った。

秦野委員長あいさつ

秦野委員長があいさつを行った。

### 2 議題「ヒアリング調査について」

秦野委員長の進行により議事が進められた。

事務局より資料に基づき説明を行った後、協議した。主な意見は次のとおり。

(秦野委員長)

ヒアリング調査の質問項目について協議する前に、1つ提案させていただきたい。

資料1の「調査を実施する者」について、「4人1組で1区2公民館を担当し、4人で1館ずつ聞き取りを行う」ことを第2回小委員会で整理した。その場合、公民館1館に充てられる調査時間は短くなり、1館につき90分、公民館職員1人あたり30分となるため、聞き取りたい内容を考えると、30分は時間的に少ないと思う。

例えば、同時に公民館2館を市役所に集め、2人1組で1館を担当し、1館ずつ部屋を分けて同時進行で聞き取りしてはどうか。質問の遣り取りや休憩等を含め、公民館職員1人あたり60分、1館につき2時間半から3時間程度になる。

公民館職員1人あたりに聞き取りできる時間は実質45分程になるかもしれないが、1つの区を4人1組で担当し、1館を2人1組で担当して同時進行で調査ができれば、休憩中に自身とは別ペアの調査の様子を聞くことも可能である。

(大谷委員)

社会教育委員側の立場としては、市役所を会場に調査を実施した方が都合が良いと思うが、公民館側の立場としては、公民館職員3人が同時に公民館を空けることは厳しいため、社会教育委員が公民館に訪問し、公民館職員を1人ずつ別室に呼び出してヒアリング調査を実施していただくとありがたい。

(秦野委員長)

同じ区内公民館2館のうち片方の公民館を会場にするか、同じ区内公民館2館を市役所に集めて調査を実施できたら良いと考えていたが、大谷委員が言うとおおり、公民館職員3人が同時に公民館を空けることは難しいと思う。

(事務局)

公民館2館が日程を合わせられない可能性もあるため、公民館ごとに調査候補日と会場を用意し、社会教育委員の方に公民館に来ていただく方が良いと考える。

調査候補の公民館で1番遠くにある相模湖公民館は、相模湖駅の近くにあるため、社会教育委員の方が相模湖公民館に行くための交通手段も問題ないと考える。

(秦野委員長)

社会教育委員も4人の日程を合わせることは難しいが、2人なら合わせやすい。

(若林委員)

資料4でヒアリング調査の実施時期は12月中旬から1月中旬とあるが、年末年始を除くと更に日程が限られ、社会教育委員の日程調整が難しくなる。

(雨宮委員)

公民館に行く機会がないため、調査時にぜひ現場の様子を見てみたい。

(大谷委員)

雨宮委員と同意見である。実際に公民館に来ていただくことで、様子もわかると思う。

(秦野委員長)

各公民館2人1組でペアを組み、地の利の良い方などに担当してもらえると良い。

古矢議長及び大谷副議長には、急遽委員が行けなくなった場合に備え、全ての調査日の予定を空けておいてもらうことになり、負担を掛けてしまうがよろしいか。

(古矢議長・大谷委員)

構わない。

(秦野委員長)

1区を4人で担当し、公民館1館を2人1組で担当する。急遽調査に行けなくなった場合は区担当者間で調整する。それでも調整がつかない場合には、古矢議長又は大谷副議長が代わりに行くということによろしいか。

(古矢議長)

構わない。各区4人で担当し、基本は公民館1館を2人1組で担当し、公民館に訪問してヒアリング調査を行う。公民館の都合、あるいは我々委員の都合によって、公民館ごとに調査日程が異なる場合もあるが、自由度を高めて対応に臨めると良いのではないか。

(大谷委員)

公民館側の立場としては、そのようにしていただけるとありがたい。

急遽調査に行けなくなる方がいる場合は、古矢議長は南側、私は北側の公民館を担当することで良いと思う。

(秦野委員長)

第2回小委員会で整理した意見から変更し、調査は各公民館に訪問して行う。また、区の担当は4人とするが、基本的には担当する公民館を1館決めて2人1組で対応するというので、定例会に提案させていただく。

その場合、公民館職員1人あたりの調査時間は30分ではなく、入れ替わりや休憩時間を含めて40分でも良いと考える。

(大谷委員)

調査候補の公民館 6 館には、いつ伝えるのか。市公民館連絡協議会で伝えるのか。

(事務局)

本日、公民館に連絡を入れ、日程等を伺いたいと思っている。

(大谷委員)

そうしてもらえるとありがたい。

(秦野委員長)

11月8日開催の第3回定例会で、調査ペアを決める際に、公民館側の調査候補日が分かっていた方が、我々委員も予定が組みやすいと思うが、定例会で調査対象公民館の承認を得る前に、公民館の日程調整を進めてしまって問題ないか。

(古矢議長)

後々引っ掛かることもあるかもしれないが、良かれと思って施すことは許されて良いと思う。定例会での決定前に施すことで、決定的な害がおよぶ場合は問題があるが、この場合は先に進める方が有益であると考えます。

(事務局)

定例会承認前ではあるが、調査対象公民館に、調査を受けていただけるか、どの日程であれば受け入れ可能か、内々に調整を進める。

(大谷委員)

まずは、内々に調整を進めていただきたい。

(秦野委員長)

事務局で内々に公民館の日程調整等を進めていただき、調査候補日を複数挙げた上で、定例会に諮るということでよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

次にヒアリング調査の質問内容について、資料 2、3 及び公民館資料等を踏まえた上で、柱に沿った共通質問や、各公民館の特色に応じた個別質問を、公民館職員が答えやすいよう問い掛け方も含めて協議していきたい。

また、個別質問については、本日の意見だけで決めてしまわず、第3回定例会で調査ペアを決めた後に、ペアを組んだ方々が聞き取りしたいと思う質問も追加できる余地を残したいと思うがよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

本日皆様と協議するにあたりたたき台があると議論しやすいと思い、私と古矢議長で、それぞれ意見をまとめたものを作成してきた。皆様から意見をいただき、質

問項目を絞る方向でより良いものにまとめていきたい。

(大谷委員)

公民館側の立場として、たたき台を拝見させていただいたが良いと思う。

(秦野委員長)

質問項目を先に整理した上で、時間に余裕があれば議長案の公民館案内文についても検討したいと思う。

公民館職員 1 人あたりの調査時間は 40 分と短い。聞きたいことは多々あると思うが、「この質問を聞けば、こちらの質問の答えも一緒に返ってくる」というようなことも考えつつ、質問の内容や問い掛け方を整理していきたい。

まず、共通質問について、議長案の質問項目 10 から 12 までと、秦野案の質問項目 1 から 3 までが、柱に沿った質問となっているが、いかがか。

(古矢議長)

公民館職員 1 人あたりの調査時間は限られているため、なるべく質問内容を整理して絞り込む。その上で、調査当日は公民館職員の回答状況に応じて、その質問項目の中から聞きたい項目を選び出して、聞き取りしても良いと思う。

(大谷委員)

同意見である。また、質問内容について、事前に公民館に教えてもらえると、公民館職員も答えやすいと思う。

(秦野委員長)

質問項目は、第 3 回定例会に諮り、資料 5 のような調査票にまとめた上で、議長が作成した案内文を添えて、事前に公民館へ送付して回答してもらう予定である。また、社会教育委員は、その事前回答の内容を読み込み、ペア同士で聞き取りする内容を相談した上で、調査に臨む方法はいかがか。

そうすることで調査時間が短くとも、丁寧な聞き取りができるとともに、時間が足りずに聞き取れなかった場合も文字による事前回答があるため、事前回答と聞き取った記録を基に、調査結果をまとめられる。

(大谷委員)

その進め方で良いと思う。

(秦野委員長)

事務局として、そのように進めることは可能か。

(事務局)

可能である。

(秦野委員長)

質問票は、本日の意見を整理し、定例会で承認した上で、事前に公民館に送付する方向で進める。

続いて、質問内容について協議する。

例えば、議長案では、「機能してると考えますか」という問い掛け方をしており、秦野案では「実践するためにどういうことが必要だと思いますか」という問い掛け方をしている。「機能してますか」の問い掛け方だと、公民館職員は「Yes」又は「No」で答えられてしまうため、「それはなぜですか」という問い掛けを追加する必要がある、もったいないと思う。秦野案では、「現在は実践できてないが、こういうことが必要であると思っている」というような、公民館職員の考えていることが答えとして返ってきたら良いと思い、このような問い掛け方にした。

(若林委員)

「機能していると考えますか」に、「例えば、どういう事業をやられましたか」という問い掛けも入れると、「このような取り組みをしたので、機会と場づくりにつながっていると思う」というような具体的な事例の回答が返ってくるのではないか。公民館と我々委員とで、事業の捉え方や見え方が違うかもしれない。

(秦野委員長)

議長案の質問項目 10 は、「機能してますか。機能している公民館については具体的な事例を教えてください」と問い掛け、「機能していない」と答えが返ってきたら、「機能させるためにどういうことが必要とお考えか」という問い掛け方としてよろしいか。また、質問項目 11、12 も、同様の問い掛け方とするか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

質問項目 11 も同様に、公民館の答えが「機能している」であれば具体例を聞き、「機能していない」であれば「青年、勤労者、外国に縁のある人など、様々な世代や立場の人の利用をどうすると促進できると考えるか」と少し具体例を入れた聞き方をする。または、答えが「機能している」「機能していない」のどちらも対応できるように「さらに広げていくためには何が必要と考えるか」という聞き方とし、質問項目 12 は「どのような仕組みや事業があるとその課題を越えられそうか」という聞き方かどうか。

(若林委員)

その他に、「どのくらい参加があったか」という問い掛けを入れ、企画した事業が上手くできたか、それとも思ったようにできなかったかも聞きたい。例えば、「公民館で意図したことが、地域住民には伝わらなかった」など、色々考えて企画しても、それが地域住民になかなか伝わらないこともある。

(秦野委員長)

柱に沿った質問項目は、議長案と秦野案を合わせた上で、その中に若林委員から意見があった公民館側の苦労話などを聞けるような問い掛け方としてよろしいか。公民館からの事前回答で具体例等を書いていただき、ヒアリングでは少し掘り下げ

て聞けたら良い。

質問項目の文言整理については、本日の協議を基に、私と古矢議長と事務局で整理して良いか。その上で、定例会で皆様から意見をいただく。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

次に、議長案の質問項目 1 から 9、柱関連以外の質問項目について協議したい。

(大谷委員)

「大事にされていることは何か」「心掛けていることは何か」などの質問は必要であると思う。面白い質問内容であり、公民館職員全員に聞きたい。公民館職員は、自らが公民館に勤めたくて職員になった方々だが、このように「大事にされていることは何か」と、なかなか聞く機会がない。

(雨宮委員)

議長案は、全体的に職員個人や実践者に焦点を当てた質問内容であるため、職員個人の思いを聞き取ることができると思う。

(若林委員)

聞き取りを行う際、公民館職員の方は緊張されていると思う。調査する側と受ける側が、お互いの信頼関係をつくるため、最初にアイスブレイキングとなる質問があると、後々掘り下げて質問しやすくなるのではないか。

(秦野委員長)

質問数が増えると、回答する公民館側が大変になってしまう。質問数を少なくするため、議長案の質問項目 1、2、3、4 をまとめ、「大事にしていることや、心掛けていること、喜びを感じたことなどがあったら教えてください」というような聞き方とし、回答者は「大事にしていること」「心掛けていること」「喜びを感じたこと」のうち、どれを回答しても良いようにしてはどうか。

(若林委員)

我々委員も、その回答を取っ掛かりにすれば、上手く質問に入れるのではないか。

(秦野委員長)

事前回答を見ながら「こんなことがあったのですか」と質問に入りやすい。

また、質問項目 5、6、7 についても、「これまで実施した取り組み」というように、まとめた聞き方ができると思う。

(古矢議長)

公民館から色々な答えが返ってくると思うが、我々委員から見えるものと、取り組みに携わっている公民館の方が考えているものは違う。これらの質問は外せないところである。

(大谷委員)

同意見である。

(秦野委員長)

質問項目 5、6、7 をまとめ、公民館側には答えやすいものについて回答いただくことができれば、事業に対する心積もりや思いが見えてくると思う。

質問項目 8「チームワークについて心掛けていること」について、1 年目の職員は、運営について欠けていることなどは答えづらいと思う。質問項目 9、13 を「その他公民館の取り組みや運営について、考えがあったら聞かせてください」とまとめた聞き方をして、その中に「チームワーク」も入れ込んではどうか。

(大谷委員)

質問項目 8 は、館長や館長代理が回答対象になると思う。

(古矢議長)

任期付職員には少し聞きづらい。

(秦野委員長)

「チームワーク」については、運営に関するヒアリングの際、館長だけに聞き取りをしても良いと思う。

(大谷委員)

そのように聞いていただけるとありがたい。

(若林委員)

任期付職員には、質問票に記載せず聞き取りで「職場の雰囲気はどうか」と聞いても良いと思う。

(秦野委員長)

共通質問についてまとめると、「1、2、3、4」「5、6、7」「9、13」をそれぞれ 1 つの質問にまとめる。それに「10」「11」「12」の質問を加え、6 つの質問に絞ったが、よろしいか。

この他、本日の協議で各館独自の質問を 1 つに絞るとともに、定例会でペアとなった委員同士が考えた質問を追加できる余地を残しておく。

回答者の負担とならないよう、質問数は増えすぎないようにしたい。

(若林委員)

回答者の字の大きさによって、沢山書いていただくことも可能ではないか。

(秦野委員長)

実例などは、質問票には「別紙」と書き、資料として提出される可能性もある。

全館に共通する質問の文言整理については、協議する時間が足りないため、私と議長と事務局で相談しながら進めさせていただく。

次に、各館の個別質問について整理したい。「違う聞き方をした方が良い」「この公民館には違うことを聞きたい」など意見があれば教えていただきたい。

(大谷委員)

相原公民館以外に連絡所はないのか。

(事務局)

調査対象公民館の中では、相原公民館と大野台公民館に連絡所があった。現在連絡所は廃止され、今後の活用方法として、フリースペースを意識した活用をしていきたいとの意見が挙がっている。

その他、倉庫や専門部会などで活用される予定であるが、これら活用に関しては、地域住民の方や、公民館職員も色々と考えているところがあると思う。

(秦野委員長)

調査研究の柱にある「居場所」や「新しい公民館の利用法」に関わるところである。旧連絡所のある公民館について、現在の進捗状況等を聞きたい。

(事務局)

相原公民館では、「個人でふらっと公民館に来れる場所が必要だ」という意見があり、それを意識したスペースを考えている。

(秦野委員長)

相原公民館と大野台公民館には、各館への個別質問として、旧連絡所の活用について話を聞きたい。公民館職員から、様々な思いが聞けると思う。

(大谷委員)

同意見である。

(小泉委員)

連絡所とは何か。

(事務局)

住民票等の各種証明書は市役所や区役所で発行しているが、そのほかに各種証明書を発行できる出張所を、人口の配分に応じて公民館にも設けていた。近年はIT化が進み、コンビニでも各種証明書が取得できるようになったため、令和3年度末に公民館の連絡所を廃止することになった。

廃止後の連絡所スペースは公民館が活用する予定であり、どのように活用するかは、各公民館が運営協議会等で地域住民に意見を聞き、方向性をまとめたところである。

相原公民館と大野台公民館は、旧連絡所スペースがロビーの近くにあるため、貸室ではなく、個人でも使えるようなフリースペースにできないか検討をしている。今年度中に検討及び改修を終え、来年度4月から運用していきたいと考えている。

(秦野委員長)

今説明いただいた旧連絡所の進捗状況を、定例会で説明いただくことは可能か。

(事務局)

可能である。

(秦野委員長)

旧連絡所については、調査研究の柱にある「公民館の新たな利用法」につながる重要なところである。定例会でも、旧連絡所の状況等を踏まえ質問項目を考えてもらえるよう、情報提供できる範囲で構わないため説明いただきたい。

(事務局)

承知した。

(古矢議長)

横山公民館と大野台公民館は、若者を上手く活かした取り組みを行っている。横山公民館では、相模原高校科学研究部の生徒が、青少年を対象に「夏休み教室科学実験ショー」を行っている。大野台公民館では、北里大学病院奉仕団が青少年を対象に「子どもチャレンジ教室」を開催している。

これらの取り組みは、調査研究の柱にも関係するところであり、どのような理由で、どのように企画して開催しているか、具体的に聞き取れると良い。

地域課題や社会課題についてアバウトに聞くのではなく、少し具体的に挙げて聞くこと回答しやすいと思う。

(秦野委員長)

秦野案の大野台公民館への個別質問①では、学生が講師になる具体的な事業名として「地元学」を挙げているが、古矢議長から意見のあった「子どもチャレンジ教室」の記載も追加する。

(水谷委員)

公民館は、どのように事業を企画しているのか。方針等に基づいて企画するのか。それとも、みんなで意見を出し合ったものを方針等に紐付けていくのか。

(大谷委員)

田名公民館は、青少年部、体育部、文化部等があり、公民館職員と地域部員がどのような企画にするか相談し、準備委員会、実行委員会を立ち上げ、公民館職員と地域部員が一緒になって事業を実施する。

例えば、子どもと関わる事業を企画する際には、青少年部担当の公民館職員が、地域の青少年部員と相談しながら、協力団体へ交渉等を行う。

横山公民館等が、どのように企画しているかはわからない。

(水谷委員)

公民館によって異なるということだが、企画が上から降りてくる場合と、下から上がってくる場合と、両方あるのか。

(大谷委員)

公民館によって形態は異なる。

(秦野委員長)

今年度の重点目標ではないが、事業の中で何を考えてもらいたいのかの方針等を、

生涯学習課から公民館に出しているのか。

(事務局)

生涯学習部として年度事業方針があり、各公民館に振興計画や年間事業計画がある。公民館がどのように事業を考えて企画しているかは各公民館で異なるが、振興計画はその参考になると思う。各公民館の振興計画は、生涯学習課も所持しているため、社会教育委員の皆様は資料として提供することは可能である。

(秦野委員長)

公民館は、教育振興計画や公民館振興計画に基づいて年間の事業計画を立てている。その事業計画を立てるにあたっては、公民館職員が中心となるのか、専門部で考えるのか、専門部のない公民館もあるなど、公民館によって色々なやり方がある。

これらの前提を、我々委員全員が理解をしていないと、同じ質問であっても問い掛け方が変わってしまう。事業企画の流れがわかる資料を第3回定例会で提供いただきたい。

(事務局)

公民館資料 170 頁「公民館運営の手引き」を基に説明したい。

(秦野委員長)

公民館資料の詳細な資料ではなく、「振興計画、公民館振興計画、各館年間事業計画があり、各公民館の専門部や公民館職員が事業を企画し、社会教育主事が指導する」というフローチャートがあると良い。フローチャート資料を作成いただいた上で、詳細は公民館資料を確認いただく流れにはできないか。

(事務局)

承知した。

(大谷委員)

公民館資料ではわかりにくい。

(秦野委員長)

フローチャートを見てから公民館資料を読んだ方がわかりやすい。

(水谷委員)

「本当はこのような事業を実施したかったが、上から言われたためできなかった」など、企画の仕方によって回答内容が変わってくると思い、質問させていただいた。

(秦野委員長)

「本当はこのような事業をやりたかった」「この事業はやりたくなかった」という話も出てくると思う。それらの話をぜひ聞きたい。

質問項目について話を戻すが、横山公民館は、大野台公民館と同様に、「地域課題や社会課題」の文言を削除し、具体的な事業名を挙げて、事業実施の難しさや工夫点を聞けるようにする。特に、子ども、若者に関して質問する。

(大谷委員)

「地域課題や社会課題」について、聞いてみても良いと思う。

先日の中央区内公民館長会議では、横山公民館の事業について、小山公民館長から「その事業はどうやったのか。当館でも実施したい」という発言があった。横山公民館の職員自身が考える地域課題等について、ぜひ話を聞いてあげてほしい。

(秦野委員長)

大谷委員からの意見のとおり、横山公民館や相模湖公民館について、秦野案を活かす形としてよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

次に、星が丘公民館について、令和2年度以前の公民館資料を見ると、長期事業が実施されており、全公民館の中で頑張っているイメージがある。しかし、近年は単発事業となっているため、秦野案では「良いテーマを取り上げているが「系統だった講座」ではなく単発事業になっているのがもったいなく感じる」というを問い掛け方にした。

(若林委員)

PTAの方が星が丘公民館の手伝いを行っている聞いたことがあり、活発的なイメージがある。

(秦野委員長)

令和2年度以前の公民館資料で見えていた星が丘公民館の活発的なイメージが、令和3年度以降の公民館資料では薄れてしまった。その原因に心あたりはあるか。

(事務局)

コロナの影響が大きい。星が丘公民館以外も、参加者の方が継続して複数回集まることで感染が拡大する恐れがあるため事業が単発化しているが、コロナが落ち着いてくれば元に戻るのではないかと思う。

また、コロナの影響とは別に、星が丘公民館に限らず、長期事業の参加者が減っているため、多くの方に参加してもらえよう単発化している。

(秦野委員長)

講座は、数が10回20回とはいかずども、3回くらいは継続して実施すべきであると思う。

近年、社会教育の根幹である「学び合い」「相互学習」が働かなくなっている。全ての事業が単発講座や集会になってしまうと、同じものに興味を持って学んだ人同士が、互いに学んだり、仲良くなってグループができたりなど、人と人のつながりづくりができなくなっている。

したがって、長期事業に戻ったら良いと思っているが、それを公民館職員にどの

ように問い掛けたら良いかという思いも込め、星が丘公民館への質問を「複数回や学習者相互の学び合いにするには何が困難か」という問い掛け方にした。しかし、事業が単発化した原因には、コロナの影響もあるため、前半部分の「もったいなく感じる」の件は削除したいと思うが、いかがか。

(大谷委員)

公民館では、コロナ禍は単発事業でも仕方がないという思いがあったが、近頃は学級などを実施できるようになってきている。

(秦野委員長)

大野台公民館の「地元学」は 17 回講座を実施している。参加者は回ごとに異なると思うが、系統立て、好きな回を学べるような仕組みを作っているところが良いと考える。以前定例会で、大橋委員から似たような事例の紹介があったが、他の公民館にもこのような事業が広がると良い。

(事務局)

「1 つのテーマを長期的に学ぶ事業が少ない中、それを実施するためには何が課題か」というように聞いていただくと良いと思う。しかし、公民館職員のスキル向上のために研修を生涯学習課で企画・実施しているが、長期事業のプログラムを企画できるかは公民館職員の資質にも左右される。それも踏まえた上で、聞き取りしていただけたらと思う。

公民館職員からは、「公民館としては、長期的な学習が必要であると考えているが、地域から「単発事業の方が良い」という声もあり、学びを深めるプログラムを作ることが難しく、課題と認識している。」というような回答が出てくるのではないかと推測する。

(雨宮委員)

聞き方を間違えると、公民館へのダメ出しのようになってしまう。

(古矢議長)

17 回の講座を企画・実施することは素晴らしい。

大野台公民館の辺りは、昔は湿地で大沼小沼という地名が残っており、だいだらぼっち伝説がある。相模原は、昔から灌漑用水について非常に苦労した土地である。

「地元学大野台」は、そのような中で歴史が積み重ねてきたことを、水をテーマにシリーズで学んでいて面白い。

(秦野委員長)

地元で、長期間同じテーマを研究した方が、「相模原の民話は任せて」「相模原の地名は任せて」というように育っていくことが、学校教育ではない社会教育の面白さであり、公民館の頑張りどころではないかと思っている。雨宮委員が言うように、ダメ出しではなく、「何が一番難しいか」という聞き方ができると良い。

(古矢議長)

質問項目のたたき台から、オンライン配信に関する視点が抜け落ちている。

「コロナ禍などにおいて、長期事業を行う際のオンライン配信の活用について、どのように思っているか。あるいは実践しているか。」というように、長期事業と絡めて聞けると、上手く話を引き出せるのではないか。

(大谷委員)

ぜひ聞いていただきたい。田名公民館は、3年前はオンラインを全く活用できなかったが、「コロナ禍においても事業を継続しなければ」との思いから、苦労もあったが活用が広がっていった。そのようなことも聞いてもらえるとありがたい。

(秦野委員長)

相模湖公民館と横山公民館の地域課題や社会課題に関する質問について、「オンラインの活用について、どのように考えているか」を付け足したい。

星が丘公民館には「長期プログラムを立てることが難しくなっているようだが、どのようなことがあれば長期プログラムを立てられるか。何が1番難しいか」ということを聞けたら良いと思うが、どのような聞き方をすると公民館職員は答えやすいか。「1つのテーマを時間を掛けて学び、参加者同士が学び合えるようなつながりができていく仕掛けを作るには、どのようなことが考えられるか。どのようなことが難しいか。」という聞き方だと答えにくいかな。

(大谷委員)

田名公民館の場合は、自治会と関わりが深く、自治会から体育指導員やスポーツ推進委員や体育部員等が選出されている。自治会から「事業をできない」と意見が挙がった場合、スポーツ推進委員等が「事業をやりたい」と思っているにもかかわらず、田名公民館で新しい発想による事業を実施することは、なかなか難しい。

(秦野委員長)

田名公民館は体育部員が35人おり、他の公民館に比べて圧倒的に多い。

(大谷委員)

田名公民館区には自治会が16あり、それら自治会から選出された体育部員と一緒に事業を企画しているが、希望者を募って新しい事業をやろうとしても、「自治会ではやっていないから、やらない」というように言われ、希望者が集まらない。

(事務局)

公民館としては、そのような意見が地域から挙がると、なかなか長期事業を行うことが難しくなってしまう。

質問を「例えば、半年や1年掛けて、1つのテーマで長期事業を行うとしたら、どのようなことを企画するか」というような聞き方にしてはどうか。

(大谷委員)

公民館職員は、「このような事業をやりたい」という思いを持っているが、コロナの影響や、星が丘公民館の場合は改修工事等が重なり、やりたい事業があってもできない場合もある。

(秦野委員長)

星が丘公民館で、改修にあたってのアンケートを実施していたが、とても丁寧な内容であった。改修工事を終え、コロナが収まった後に、「こんな事業をやりたい。こんなことに取り組みたい。」という思いを公民館職員は持っているのではないか。その辺を星が丘公民館に聞いてはどうか。

(大谷委員)

ぜひ聞いてあげてほしい。先日、星が丘公民館長と話す機会があったが、改修工事でなかなか思い通りにいかない部分もあるのではないかと思う。

(水谷委員)

大谷委員の話で、公民館と自治会の連携が深いことがわかった。

(大谷委員)

田名公民館だけでなく津久井公民館も自治会との連携が深い。田名公民館のように自治会と深くつながりがある公民館もあれば、公民館職員と地域の方だけで事業を進めていく公民館もある。公民館ごとに、それぞれの成り立ちなどが異なる。

(秦野委員長)

星が丘公民館については、「改修工事が終わり、コロナがある程度収まったら、どのような事業に取り組みたいと思っているか。例えば、1つのテーマで、じっくりやるとしたら、どのようなやり方が考えられそうか」というような聞き方としてよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

次に、大野南公民館について協議したい。どこの公民館も土日に子ども向け事業を行っているが、大野南公民館は一般向けの事業も土日に行っており、公民館職員は苦勞されていると思う。秦野案では、「一般向けの事業を土日に実施するにあたり、勤労者や若者の参加状況、手応え、苦勞されたこと」という聞き方をしたが、他に聞きたいことはあるか。

大野南公民館は、他の公民館にはない「保育研修」を実施しており、素晴らしい。「保育研修」というのは、保護者の方が公民館事業で学んでいる間に子どもを預かるボランティアの方のための研修である。公民館の保育は、ただ安全に子ども預かるだけでなく、子どもをどう育てるかという視点をボランティアの方が持つことが大切であるため、それについての研修をしている。

(大谷委員)

ぜひ聞いてあげてほしい。

(小泉委員)

大野南公民館だけ保育委員会の専門部がある。

(秦野委員長)

若い保護者の方が保育委員になっている。

(古矢議長)

大野南公民館の「若者講座」は、3回の連続講座で、若者自身が抱える問題や交流心理学で、どのようにしたら自分の能力を出せるかということを生懸命教えている。

(秦野委員長)

若者講座の参加状況や手応えについて、ぜひ話を聞きたい。

(古矢議長)

講座に臨床心理士が関わっている。

(秦野委員長)

臨床心理士が関わっているのは、保健所が近いためか。

(若林委員)

そのとおりである。

(古矢議長)

聞けるのであれば、参加した若者の感想、手応えを聞きたい。

(秦野委員長)

ぜひ聞きたい。それをきっかけに、他公民館もやってみようと思ってもらえるのではないか。

話を整理する。相原公民館は、「旧連絡所としての活用について、現時点の見通しと課題、そのための工夫などを聞かせてください。」と聞く。

相模湖公民館は、「地域課題や社会課題の事業を実施する難しさについて、どのような点が困難だと考えますか。どのようなことがあればその困難さを乗り越えられそうですか。例えば、オンラインの活用などは、どのようにしていますか。」と聞く。

横山公民館も相模湖公民館と同様に聞いた上で、2つ目の質問として、「夏休み教室で高校生に活躍をしてもらっている、その手応えや工夫などを教えてください。」と聞く。

星が丘公民館は、「改修後やコロナが一段落したところで、どのようなことをやりたいと考えていますか。例えば、1つのテーマにじっくり取り組むようなことをやるのであれば、どのようなやり方が出来そうですか。」と聞く。

大野南公民館は、「土日開催の事業が比較的に多いが、勤労者や若者などの参加

状況や手応え、苦勞などを教えてください。」と、「保育研修を実施しているが、その工夫や手応えなどを教えてください。」の2点を聞く。

大野台公民館は、「系統立てて長期にわたる「地元学」や、学生が講師になる「子どもチャレンジ教室」などの事業が特徴的だが、実施する中での課題や今後の広がりの可能性について教えてください。」と、相原公民館と同様に「旧連絡所としての活用について」の2点を聞く。

ここまで意見をまとめたが、オンラインに関する質問はどうするか。もしくは質問として聞くのではなく、事務局が持っている資料を提供いただくことは可能か。

(事務局)

各館のオンライン実績は把握している。

(大谷委員)

公民館資料では、相模湖公民館と千木良公民館と一緒に記載されているが、どのように事業運営しているのか。

(事務局)

千木良公民館は貸館のみ行っており、相模湖公民館がオンラインを行っている。

(秦野委員長)

先程整理したとおり、相模湖公民館には、オンラインについて質問する予定である。他の公民館は、公民館側から発言があれば聞き取り、質問項目には足さなくてもよろしいか。

(大谷委員)

相模湖公民館は、地域的に広く、集合形式では難しいという答えがおそらく出てくるのではないか。

(秦野委員長)

大野南公民館の若い保護者の方から「相模湖公民館のような自然のあるところの事業にも参加してみたいが、参加できるのは地元の方だけであるため残念である」という話を伺ったことがある。

市内の交換留学生ではないが、南区の子ども達が相模湖公民館の事業に参加したり、公民館合同で事業をできたら面白いと、その保護者の話を聞いて思った。

(大谷委員)

相模湖公民館から、そのような発想はなかなか難しいと思う。南区にある公民館から提案してもらえると、「一緒にやりましょう」となるかもしれない。

(小泉委員)

学校でもオンラインを使わざるを得ない状況であり、有効な活用の仕方などは今後避けては通れないと思うため、オンラインを活用している公民館には聞いても良いかもしれない。有用性と課題が必ずあると思う。

(秦野委員長)

相模湖公民館には聞くこととしているが、他の公民館5館の中で、活発にオンラインを活用しているところはあるか。

(事務局)

星が丘公民館が、Twitter等のSNSを活用した配信に一生懸命取り組んでいる。

(大谷委員)

大野南公民館も活発ではないか。

(事務局)

大野南公民館も活発である。

星が丘公民館は、館長代理から公民館職員へ指示して非常に力を入れており、市内公民館内でTwitterフォロワー数1位を目指している。

(秦野委員長)

素晴らしい。

(事務局)

オンラインを活用した講座件数は、昨年度に比べて減少している。

コロナが落ち着いてきた際に、オンラインから対面に戻していくか、それとも対面とオンラインの双方を活用していくかは、各地域の状況によって異なると思う。

(秦野委員長)

オンライン活用状況について、公民館職員に聞き取ることはなかなか難しい。事務局から参考資料をいただくことにしてはどうか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

共通質問「事業を行うにあたって心掛けてること」のところ、「現在の社会状況でこのような工夫をしてる」という答えが返ってくると良い。そのような答えが返ってきたら、聞き取りで話を振って「オンラインの活用はどうか」というように少し丁寧に聞き取りたい。

本日の協議内容をまとめる。皆様の意見を踏まえて事務局で整理し、11月8日定例会で資料1、2、3と併せて提案したい。

調査は、2人1組でペアを組み、公民館に訪問して調査を行う。調査に要する時間は1公民館につき約120分、公民館職員の入れ替えを行いながら1人1人に話を聞く。また、本日の協議結果を踏まえ定例会に提案する質問項目のほかに、担当する公民館のペア同士で相談して質問項目を増やすということで、定例会に提案してよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(古矢議長)

ヒアリング調査実施に係る公民館への案内文について、事務局から公民館へ伝えるということで良いか。

(秦野委員長)

公民館案内文で1点気になることがある。これまでの会議で、最終的に調査研究を事例集にまとめるのではなく、提言の柱の中に事例も入れていくという方向性になっていたと思うが、その部分について案内文を修正をしてもらえるとありがたい。また、案内文は、小委員会から定例会に提案するという理解でよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(秦野委員長)

案内文について、どのような文章であれば公民館職員が質問票に答えやすくなるかなどの修正意見があったら、後日事務局に連絡するということがよろしいか。

(全委員)

反対意見なし。

(事務局)

意見があれば、10月21日までに事務局へご連絡いただきたい。

(秦野委員長)

他に情報共有したいことなどあるか。

### 3 その他

#### (1) ウェブアンケートについて

(事務局)

10月1日から実施しているウェブアンケート調査の回答状況について、途中経過を報告する。回答期限まで残り1週間程あるが、現時点で450人から回答があった。

そのうち約半数以上が「公民館を利用したことがない」又は「過去5年以内に公民館事業に参加したことがない」と回答しており、アンケートのサブタイトルに設定している「公民館を知らない・利用したことがない方にもぜひ回答してもらいたい」という目標は達成していると考えている。

#### (2) 議会に関する報告事項について

(事務局)

9月市議会定例会で、公民館の活性化が1つ議論になり、議員から「公民館の使われ方について、以前と比べて、広く色々な方が気軽に立ち寄れる開かれた公民館から、段々限られた方が使う施設という形になってしまっていないか」という指摘をいただき、「現在、社会教育委員会でも、そのようなテーマに近い調査研究も

されているため、参考にさせていただきながら教育委員会としても考えていく」と答弁したところである。本市としては開かれた公民館で、誰もがふらっと立ち寄れるような地域の施設を目指していることは申し上げているが、どうしたらそのようなのか、教育委員会として検討していかなければならないと思っている。

また、「地域課題の解決につながるようなものに、公民館単独で取り組むのではなく、地区社会福祉協議会や、まちづくりセンター併設の場合は地域政策担当職員など、横の連携もしながら公民館を舞台にして、各地域の様々な課題に対して何か展開できないか」という指摘もいただいている。教育委員会としても、横との連携なども含めて検討しなければならない課題であると認識している。

社会教育委員会の調査研究の中で、今後の展開のヒントのようなものが見出していけたらと我々も期待しており、考えていかなければならないと思っている。

(秦野委員長)

調査研究の3つの柱の中に、公民館の新しい利用の仕方や、旧連絡所のロビー機能としての活用、他機関・他団体との連携など、議会質問に掛かるところがある。

地域課題の解決につながるような取り組みについて、直接的にヒアリング調査では聞くことはできないが、提言をまとめていくにあたり絶対に触れなければならない部分である。

(事務局)

なかなか「これをやればこうなる」という特効薬のようなものがあるわけではないため、少し息の長い取り組みになるが、何か打ち出していかなければならない。

(秦野委員長)

単館で取り組むことは少し厳しいと思うが、ブロックごとに1つのテーマを、例えば社会福祉協議会などの他団体と一緒にになって取り組むことは難しいか。

(事務局)

各地域で課題が異なるため、他団体と共通して何に取り組むには「この地域はこの課題に取り組む」という合意を取り、方針を出していかなければならないため、直ぐには難しい。また、公民館で取り組みたいと思っていることは、他団体では既に一生懸命取り組んでおり、連携どころではないという場合もある。

方針という部分では、社会教育委員会議の調査研究から「このようなことが必要である」という助言をいただいた際には、各公民館と調整して取り組んでいく必要があると思っている。

(若林委員)

以前ある公民館運営協議会に出席した際、当時の公民館職員から相談を受けたことがあった。その公民館では、貸室について独自ルールを設けており、一般の方が公民館に入り難いイメージがある。

現在は子どもが大きくなったため、なかなか公民館に行く機会はないが、最近

どうしているのか気になっていた。公民館の姿勢等によって、「一緒に取り組もう」と思う人もいれば、「単独で取り組みたい」と思う人もいるのではないか。

(事務局)

各公民館が独立している地区館並列方式は、本市の特徴であり、独立して地域ごとに決めていくという伝統もある。これは良い面でもあるが、区ごとに共通のテーマに取り組む場合には、なかなか連携が上手くいかないという現状がある。

(秦野委員長)

普遍的な課題も同様か。

(事務局)

普遍的な課題に、どのように取り組んでいくかという方針のようなものを、全公民館にわたって立てていく必要がある。

(古矢議長)

以前から気になっていたことであるが、公民館が共通して取り組む事業について、公民館側のニーズも重要であるが、「このようなことがあると良い」という思いを事務局と公民館の両方で語ることが必要であると思う。事務局担当者として、公民館共通で取り組む事業はどのようなことが必要だと考えているか。

(事務局)

人権や障害の問題など、参加者が集まらなくても公民館として取り組むべきものは、枠組みを作っていく必要があると思っている。

川崎市などは、枠組みを持ち、毎年計画的に取り組んでいるが、本市はその枠組みがない。本市教育振興計画で人権や障害等に関することを公民館で取り組んでいくこととしているが、具体的な方策等は決まっていない状況である。

(古矢議長)

対面による複数回の講座が難しいようであれば、オンライン講座あるいはオンデマンド講座と合わせて組み立てても良いのではないか。

(秦野委員長)

人権等について、他自治体も様々な方法で取り組んでいるため、本市でも取り組んでもらいたい。

それらの共通テーマに関して、地域独自の課題を大事にすることと、社会としてみんなで考え取り組まなければならないことについて、何か方針が出せると良い。

## まとめ

### 1 ヒアリング調査について

(1) 実施方法について、以下のとおり整理した。

調査実施者：1区につき4名で担当

公民館1館につき2人1組で担当

調査対象者：館長、館長代理、任期付短時間勤務職員1名 計3名

(個別に40分程度聞き取りする)

調査の会場：各公民館諸室

(社会教育委員が各公民館に訪問する)

(2) 質問項目について、以下のとおり整理した。

共通質問

「3つの柱に関する質問」3問

「公民館職員個人に関する質問」2問

「公民館の運営・取組に関する質問」1問 計6問

個別質問

相原公民館：旧連絡所の活用について

相模湖公民館：地域課題や社会課題に関する事業について

横山公民館：地域課題や社会課題に関する事業について

高校生が活躍している事業について

星が丘公民館：コロナ終息・改修工事後の長期事業について

大野南公民館：土日開催の勤労者・若者向けの事業について

保育ボランティアの研修事業について

大野台公民館：長期事業や、学生が活躍する事業について

旧連絡所の活用について

※上記のほか、担当ペア同士が考えた質問項目を追加できる。

第3回定例会で、(1)(2)について提案し、各公民館の調査担当者を決める。

秦野委員長のあいさつにより、会議を終了した。

以上

令和4年度 第3回社会教育委員会議小委員会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小泉 勇	相模原市立田名小学校長		出席
2	大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会会長	副委員長	出席
3	若林 由美	一般社団法人星と虹色な子どもたち 相模原支部役員		出席
4	秦野 玲子	RE Learning代表	委員長	出席
5	古矢 鉄矢	北里研究所参与		出席
6	水谷 英正	公募		出席
7	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市子ども・若者自立サポート 事業総括		出席